KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
Centimetres

Tajima JAPAN

遠13
門
號 964
巻 2

本清

復讐奇談信夫摺在原草紙巻一

浪華　中川昌房　著述
東都　感和亭鬼武　校合

相撲節會定皇位
名席憤勝負謀反
人皇五十五代文德天皇と申奉ふい御政明らかにて
万民を恵ませ給ふ厚かりしかば市治世も長ふ栄花
を祝賀せらるゝ胡蝶の満ち去りし幻宮の数多生出
或は九十一の巻は皇子十一人姫宮十八人
が清和天皇を加へて都合三十一人にぞ
ものしまして市毋八位四位下左兵衛佐紀名虎が女児うそ
紀静子と申す美人乃容象嬋娟たる西

鶯は煙の籠の籠の中に鳴く春は遠山の色霞む
ぬ秋の夜の月を待つ間は出づる清光を見るぞ嬉しき
夏の日は蓮を思ひ初めて蓮を穿て紅艶を吹く
ようもいとど深き窓の内に捲き捲き長しかで新宿の
梅の匂ひ入るかばかり谷の戸出づる鶯の声うれく
しきふたつの所にさしどを数ぬ刃を二八の者
帝の寝席に召せしより市麗妻他に変りて
父の名虎まで左近衛徒に成りあまたの維盛紀王
丸一の宮を誕生有り後いまだ名所もその感
胡蝶の舞ひ恩恵たぐひなしさしで弟宮の維
仁親王中ハ大政大臣良房後に忠仁公の市女にて
為原朋子と申せし 清盛の后 市腹より出させたまひより
元来一の人は市腹なるをバ凡人の似ふ法き極もなく
品象の言清しかるハ中も更なり和歌糸竹管絃の
道ゆまで妙を極せしゆ既に一宮維高ハ市腹ハ中
市まで兄宮にてまハせハ叶君を市位に儲へまらんと
外祖紀名所取上なり十五方乗の幸運志ハ
ハ差一の王子に降誕にて上ハ行ハ成ハ市位ハ叶
ふれとし物ハ内奏ハ成る文徳天皇ハ市腹ハ
させ給ハ静子は腹に出させ給ハ以て
皇太子は勅命下さんと云ハ維仁ハ大政大臣の
市孫少ハ百史千官ハを低け皇子ハ天祢を進せ

文徳天皇
五十の市ぬく
許多祢
皇子をを
白さる

をらんとて帝へ乃奏聞絶て尤維高一こゝをふてこ御しせ
たまへども和〳〵激そて子ハ母よりも尊しふ乃年又
有けゝ維仁親王ゆ御しも正〳〵宮内乃市腹よ市誕生
あつて上ハ天照大神春日大明神乃御護〳〵ふ而明ら
なり遠よ遠ちこの宮名をふ〳〵もて長ぶ〳〵天聽と
驚〳〵なる義よ於〳〵文徳天皇ゆも御信ま於よ
まつりもせまゝ抜既て西ゆ乃位わ〳〵ひとい〳〵也
列位ゆ乃方ゆの人こ互よ相方乃異頁〳〵て無段爭論
よおよび後ふい相撲の市法事〳〵なりべききざ〳〵相
ふてゝり呼て後秋日年ハ武伎芳樋乃ふゆゆ毎年
七月七日ふい相撲よ於ていい相撲乃節會ゆ入とれりせ

うの出て乃力者を召て禄を賜るかゆ例あり
七年八て土師宿禰を召て維高維仁乃位定めまぶ
例ゆ一般ゆ殺し抜ゆ横乃節會ふ於〳〵西ゆ入と
ゆ乃出せ〳〵ふの力士抜房を以て
ゆ方〳〵ふ揃ゆ方と定ゆ入市位を授〳〵
べて〳〵勅命ゆ上て力士さくぐ也相撲乃
名人抜群乃力者を召て東西ゆ分ふ相撲乃
外祖ゆ紀名虎が出ぶ抜きゆ抜ま乃〳〵名虎と武五十四
果ゆ乃ゆ武盛乃事牡丹ゆ抜き〳〵者組ふて身
毛ゆ乃二す牡丹岳虎抜左ゆ生成て平日乃力六十
人ゆ歌〳〵いべも這田ゆ一世乃ちゆ乃ゆ抜〳〵

[illegible]ふ所ぶつき対々外こはふべくもおぼえざりし程
仁親王拝所方のていハ當時記名帳ここのぞきてぞ
そいはりあるさぶ誰名をしら孫廉る間ここの日明
染めまバ其方さ国拝人ゝを手ふ汗を拭るでかをえう
少将の言ゝ体乃紙雄しいつるはをえ[illegible]背ニ戻
たゝざるふ写なきでも お撲ゝハ功老乃者たりし他も婦
あゝ叶紙雄ゝ番の評定を閉ゝいつゝ名帳とい我
国乃生まゝて竹馬乃友たり 稚拝びゝかまをす
りふをえをゝ寺ハを名帳暁ゝハ千斤乃大力ハをし
いづも上げゝて見るいかゝ力ゝ 家小兵なを
どもゝふ調りばやゝかまゝ 廣てゝ為ひ

ゆゝ 特に秋を乃方ゝも紙雄のゝ将ゝゝ名帳ゝ向ゝ
きゝゝハ おぼえねども 果敢冥加を親王乃御運ゝそ
まゝゝせ なまてゝゝゝ歌ゝも けゝをを撲の作ゝ
む和叶上ゝまゝ ゝゝ 紙灯を浮べき為ふゝゝ 延慶ゝの
恵竟和尚学徳年をかさゝゝ ゝふゝゝを修験日ゝに
新たゝまば叶ハを拝をたゝふゝれゝうゝて
和尚ハ西坊の宝幢院ゝ檀上をかまへゝ大威徳の法を修
ゝゝ けゝし名帳の方へゝ坊ゝ 坊ハ乃力ふ行ゝ武
紙雄を恐ふふたゝゝ ゝしいつも法力ゝ拝ゝれてはゝゝ
まゝゝし ゝゝ 柿本乃志源作ゝゝ法力高ゝ
あゝゝも修験の巻も唱ゝ 作阿体の修ふし加

名虎ハ人をかまさじとおもはれしかうちおもを粉してあたる衆蓮紛糸
寺ふ壇を莊りて降三世乃法をおこなひたりし故よ七日ゞ系
古来ゝしかる勝負にあらず然あるに禁庭乃御壺乃ゆるて当座を辺迄
主上をはじめ御簾中をかゝる出御なれバ摂政藤白氏
姓大臣百丈千官内侍采女御更衣にいたるまでとりに
勝負を看取せんと御座の間ちかくまて伺候ありけれ
撲乃節会当日みかりて後左は紀名虎伴能雄土俵
乃上よならび出されば行司は少納言広高団扇を取
眼をくばり声をかけ草方乃お国よして名虎能雄を
立合せる名をしみに紀名虎は大手ふ一世乃さし
力ありてふおさまる躰ありは仁事を取やしはやまるけしき

能雄ハ韓客おとなしく小兵なれど向ふハ拘乃拳動かつ
御座主遣兆達使なれバ先瀧口直宿乃帯刀五位六位
乃官人等眼放さじと侍座を呑門乃雨外迄爪立首を
のべおのおのの眉持顔おもやさとなる勝負なりと思
素名虎ハ大力大兵膂骨太くして力こぶうけ高くつゝる
足両手ハ枯木よ真なる如左右乃足ハ忽堅く根をしかつく
をよるひやうも見えねど能雄ハ次第よ取りぬ鋒よ取つく
鞭乃技け潜り挑しかど名虎熾燥て能雄を捉へ小児乃
ごとく前よ引き世目より高くさしあげ既ニ曳出し投付
くうかに乃看官数千乃男女あるや名虎乃勝ぞ積二之
宮方乃員なりしと気の毒よ能雄ハ遠ゑ投皇たまがし雷で

相撲の節会
白馬の市後と
さだ宮じ

ゑ〳〵ゆゑ身をかゞ〳〵土俵乃高中よ力足を踏〳〵ま
く〳〵立ハ数千乃見物やよ止まりう勝負をいまゝ残足
ぞし感ぜるゑ〳〵ハやまざりあれ芸方まさもよせ合せ
曳〳〵たりうてりみあつりう名席ハ年古松乃枝木金藤
隠ようてへぬくゞ〳〵かゞ〳〵紀熊ハ藤蔓乃樹木ま
〳〵ふあゝきまゝ〳〵肉が〳〵みゆ〳〵み弓〳〵ふまゝりう手
よくゞて鴨乃入首羽番締請身ゑゑ〳〵表裏ま
ふかま表〳〵留め千変萬化ゑをまゝばゑる食
をりうふまゝぐかゞ〳〵ゆ〳〵危りかゞ〳〵乃み良
房公二のまゝて方ゆゑ〳〵肝腑を砕たまゝて山
門へ乃市使櫛乃蓋をゑ〳〵ゞゞし恵亮和尚こハゑ

苦〳〵叶時不覚を我山よ残ぐきや二乃宮を位ュ郎
ま〳〵次ハ郎ま〳〵仍ゑ山し任乃条力を抽く
煙樫ゑゑ〳〵ゑ翻ゆ〳〵り自ら敵をつゑ中り猛血を護
魔ゑゑ〳〵ぎ黒煙を立ゑりみゑゑ山ゑで弥ら生ま
神〳〵より強〳〵大威徳乃柔ゆひ〳〵水牛焼樫をゆ
ぐゑ〳〵ゑ及てゑを上げ〳〵ゆ〳〵ゑ大曲まで
ゑゑ紀熊雄乃耳をはゝぬ〳〵抑ぼへ〳〵ゞ危く見えゑふ
み将名席を小脇よりゑさみ南庭を二三度まゑゑ
曳〳〵いしさま石ゆよどんゑ〳〵ゆ付ゑゑ名席ハはゝく
うちはゑゑま鮮血を吐〳〵まれびゑ〳〵く起も上ゑ
ぞ蓋けぐ蔵人乃官人大勢立より名席をゑ起て

有厚菩提卷一
高僧和尚
大威德の法を修す

やうゝこの女房たちて家を送りかへし　まこゝも此時の
病と相撲の負し　憐れや其侍よりうち仆して大病
乃体し　おりをえうり禁庭にいと初めの内宮ゝたいば
也さま市位ハ二乃まふ漢し世すの是ゝ五十六代乃天
子清和天皇と稱しなりしい此君ようさいむさしも
方象繪まし名所ちまとぐ天地神明のまう誠
うゝ帝位なまこバ是非ゝ疫病康ようち仆倉
事もすゝまず苦病て侍ようなえ者ゝが其夜ゝ夜で
俗ゝ表地戸を音たひ弱ね事ふりの仏ゝ誰人ゝ何
見ゝ是ハ夢衣乃辭ゝハ是ゝ易びやうゝ父乃りゝふ入来り祈方
ようして病体をゝ丈後除乃ゝとう事をゝ

ていつらく数たゝねゝ身を天ゝ地ゝ神ゝ情ゝ
乃宿しゝまゝて既ゝ一乃宝椎高親王を表ゝ
せしハ出ゝ乃ゝ紀女乃身の果敵ゝ怪ひし甲斐
もなゝ乃ゝ祈ゝ撲乃繪負ようゝ市位ゝ既ゝ身
[illegible]ゝ定ゝ内ゝ同じ若乃市程ゝ
たゝら弁ゝ世をゝ見の身ゝて家ゝ内の子ゝを
孫ゝ目新者ゝ祈ゝ口惜ゝ乃ゝ行程ゝ口惜ゝ乃ゝ
有連ゝ知ゝ出ゝ乃ゝ親ゝ乃身ゝ上いまハかゝを
祈ゝこゝうゝ子ゝ乃ゝ椎ゝを[illegible]ゝ敵ゝ武身ゝ同ゝ
如ゝ孤ゝ[illegible]ゝ不ゝ
痛ゝ関ゝ連ゝ外ゝ[illegible]ゝ市憐乃行ゝ乃ゝ

持てかへたまへばいきいづるとおもひて陰このゝ
ゝまごゝをしなぜ〳〵ゆ密に肉表を思ひ出さるゝこ
いまかへ〳〵し訪まぐ石屋の戒腹よやどゝ〳〵まし〳〵惟喬の
答の色をちゝさゝく思へば胸もせまりまる陰に遠ちまく
まかぐ石屋の独身にして親に先立ちあまの乃ゆくえを
落る涙は滝津瀬に神や祓も絶まるだにうちなびき
行ふすゑはじうう祓をこゝ川に被き一云乃美へもなく新
外にたる父乃名席産にて疫をこゝ拝むこと
起ち静まる面の流石は名席が血をしけ女児なる
て嘆のこゝろぐ〳〵出うたるまに上は深く色こゝ我
な念祝ぎ申せん承まる高皇産霊尊乃身綾尼にして皆〳〵取

こゝを陽こゝ食縁こゝ陰は陰こゝ偏にて皇孫の穢色
よまして王子を誕生せ〳〵孔こゝ惟喬既に天位に登らば
此名席は橘政家白玉盛をてゝふふ神いの外
お撲の勝負を以〳〵位を定こゝ老に有まる父事乃
こゝ席をはじ高を仔今こゝ出こゝ勅宣事に土儀の中
まて絶雄少将が猛骨踏ぐぐ紀一旦惟高天子乃位に上る
も今朝庭は三名九郷こゝ〳〵藤原氏なれば彼ホ乙
を一段こゝて孤こゝは惟高が位を遁下〳〵良房が孫こゝふ
惟仁を天子にみせんこゝは東乃内なり我この恨に今日乃
お撲こゝまけ〳〵を憤〳〵名席こゝを病死せ〳〵惟こゝ
彼ホを十名ふ陰に立せ玉ふ仁ホ乙ふ祓を思ひ出

俳諧雄
紀名作を
投ぐ

法國の宰相を催促しいま伊賀の五二國が岳に住む
天乃菅原乃千方しいふあり神変不思議乃妖術と
小ひ金鬼水鬼隠形鬼をまつり眷属数千人乃ごと
強勢を加へふひ味方しなり大事を以て系統せめの度と
藤氏のやかたより呼端ちうち亡し根を断て系統
枯し其上ちう孫雅高を天子ちうし叶名庫ハ大政大
臣ちうつの日本一物を考へ極ふ度しまちなくう
我國乃ものひ勅命いまざり付ハ待ち乃軍勢況ぐ
はくさいうん系史紀有幸ゲ姫の井冠姫が幼雅
丈達懐ふまりる吉系業平老ちうつ敵と恐ぶ叶業平
をうぐひしりあざもうく怪宮秋生ちうし稀して千方を

味方に招くべし番大軍のこやふ見先のぐうまでい
海ハいそふ雅高を敵山乃麓ちうふ社しいうる系の海を
云国し乳母あまバ彼系深くかくま居く時節を待
へしまれハ今宵病死といかりこやうを恐ひ出ぐき
ちうあめりそ仕員人せちういまを病気し打ちる
ちうつく天魔陽旬乃あまちる勢ひされ後ふ名
庫が謀反せちを亡魂ちうあやまりしいうさし系
三ちうまけふ

業平稚戯井筒姫
名虎奪業平投賊室
抑左五中将業平しいふハ文ちうとト世紀乃天

別うて世乃人乃張るも皇源氏の業平か栖ける
ぶめし様よ氏系正しく王氏を出て遠ひ昔乃
園生に色せたまひ西貌ハ色をはなれうがごく身
姫ハ色をしこうふ等しこうめ邪平様て皇
乃ちよ陳正平阿保親王乃五男なり父乃和王
河内國丹北郡竹保村しいつを領しまし保は保系なし
茗荷郡市古村の上乃くにあり
保親王としよびなる山男乃五男なり坂上中将
しやて左原の行平の弟なり母ハ桓武て皇弟八乃
皇女伊也内親王と中なる伊賀ふやごしまふ事を曼
多つ程ましやせーが天長三年ゑ事より左原乃姓を

乃うしまい法四位上右近衛中将兼美濃守ふてあとし
あるが業平ハ時いまごこ六ゑ年ゑ年ハ時ハ二條
坊門より南高倉乃西ゑて有し　父親王乃別荘大和国石上
つゑ有しが業平幼年乃ころハ事ふかしてふ和し
こう世ふ嫡子ふ名席が嫡子紀有常が家乃ゑ
別ふしつゑはあうその東ふの畠地中ゑ有常田しあり
井筒の跡もいまふのこもうまくゑ本荘ふ義ゑ
井筒姫も同じ二歳ゑ事ふ和しき幼友達ゑ
業平朋夕有常が方ゑ来ゑ井筒姫したゑ
せうゑと名席ゑ知しゑ恋ゑ計畧ゑ業
平をうふしゑ特ゑ和ましいゑ佐國の軍勢

を催し主従を恢ん
とハ会したり斬る名序ハ
病ませし雅なるうはゝ
思ひ出るに勅撰を何と
常が方よ来て井筒の
たゝもと居るを名序
やゝ走て業平を小脇
押色背中よ走りかゝ
蓑をん蔦を羅を
走り出道をいゝ
く伊勢の國の奥なる
廻しがまゝふ
片山ハを

を引て白を左をかくし剣頭を伏し撫をたより
て上りこと二里ばかり
下り根をたよりふ
ゆゝ一段平
をお絵し蓋を
き名序をふ
ふ名序ありかく
一左手をたのこ
徳天皇乃弟
皇乃位を継

葛氏乃一族ゑをはらせ天王を敬きく陸奥乃后の腹
出生せし弟雲太惟仁ゑ位を継ぎ給ふ彼ホが奸計
まて紙くハ天照太神乃所子孫を亡し葛氏の天下ゑ
せんとて乃逆心をたくみ紀ゆりいこの
山中ゑ諸部をうまへ数千乃眷属を随へ逆意を振ふ
葛原の千方ハ部のまが一族とハ不和にして良房を恨そ
此山中ゑ引籠あまば彼をこゝ取入んゑハ業う進る共
守へきもうしゆゑ所乃ゆゑ所身を偽り悔高親王と
稱し勅命を以て渠を味方ゑ同意させん計略をハ
所身ゑ調ゑ志たゞい志たゞいと一乃高悔高親王ゑ
名乗せ部せゑ事為せバつゝ者を天位ゑ後へ

所部をうめゝ大政大臣ゑ為し給ふ計略ゑ
やうりはまゝ所ひ所ゆ紀名庫が調ゑいまゞ六
業乃業平ゑまでゑ聡明睿智ゑ所まゝ少ゝ
邪かまが為ゑ揚めゝ此面ゝ来し所逆名をもうれゑ
たゞいたゞは大害ゑ為ゑ所ゑ
部をんゝ山中をまあでを出んし思惟してうちづを
まゆゆ名庫ゑ後院志うゑ後院志うは計略為新為
為ひ山賊ゑやうらんとす所為ゑ
あいまり所ゝ見えゝ十人ばかりゑ出来ゝ見をれ
まゝ此山中ハ住為乃御国ゑ所ゝ海ハ伊国へゆ
宮ゝやゝ菅原を背ゑ負ゝ為ハ為宮盗ゝ来ゝ

なるん荷物をそれへ出し　男よ女し　衣装を刀法を
なるバ金ばかりいやしくもたれたるけやる法し　ひまごしと
新敷しそくまんぢし　口こよ味うぞ名所所てし新敷へ
こまいは山嶽こ國岳といつ新よ位而乃塗鑓乃張
千方よ野面せんなるよ物を来しまちり油ふやく
その酒よ薬酒せしてふうぞ小鍋どもきを学こぐ
大王千方将軍油ふぐしたよかるぐしく出野面あるべ
きや細こしまんぢと荷物を渡せしたるよとかもんとする
而を名所ハ山くきやかり詞ふるその者ならば一こなる
で切うてくまんぢし　三尺ハすけるぶの大ちかをぬき
かぐして前後左右乃蟬ひなく切くまふ何ふりめて

たまうべき大力の名所が数ひこんで落まうふぞ
又六個切例こ孫乃やかり系ていけこと法ともんぐして
迎うせうり名所ハ新笑ひ体ちくばこ小岳へりふ
程もあるぞと再ひ山縁を歩り所よ敗よ今日ハ金
烏西山よ傾きくく玉兎いまぐ東乃方よ行こまこ渡山
黄ハ赤くして樹木ハ森くし敗乃上よ樹ひうて道せ
ぐくして羊乃腸をえるぐあくさくの名所も方角
知らぐる不知紫西雄欲牧笛の声も学へぐしぐ道
間ぐき山嶽も通こぐさくしども赤くの者士乃しもす
ぐくくせふ所よけ法りハこくよ樹木こくよ生かさ
たり脊をうぐめくく歩もよ路ハつりくく閑して彼史羅

國の風穴道こらしいけべしかくて木の枝の間
より縄を付て縄を五六筋だくり投出し掛はまり
此下より縄徒あり〳〵徒索〳〵和を捕へんとすりて
澤〳〵と猿の翅をぬきて切〳〵切んとする
たる者十方より〳〵筋〳〵投うけ〳〵帳乃巻をかくる
うぐ〳〵ひらひ猿を切〳〵こと両足よまれ付うふそ名
序路を踏そんじて其仰ふくもを藏法師
人ぞかるもむ〳〵かを出〳〵いやが上よりうさ〳〵り筋
乃縄をりり〳〵て足乃巻打なぐふ〳〵巻うて
大兵乃名序なきば七八人うて猿よりぐり堅乃縄
上なん〳〵山奥〳〵はまりぬ〳〵一猿の石門の前よいで

来るその面害〳〵れ〳〵家をうて左右ハ
石をりけ〳〵たく〳〵み上扉ハ大石をりけうらうれ
〳〵りかかかきへる間を〳〵左右上
〳〵を切ぬきし〳〵洞穴たり（伊賀國壽見村三国ヶ岳ヶ山洞穴今
〳〵りの間谷ヶ間ハ東西八間門ハ北向一ヶ所ハ〳〵有）
連上者屋乃ぢし〳〵天〳〵〳〵美顔美形乃ものも鬼も
人も〳〵けだ〳〵りをぬきはぬる細絆ハされ〳〵ら
孫乃跡の芭蕉花をうろ〳〵〳〵らよハ冊丈を
たく〳〵ふ去よ〳〵なり〳〵ぞ備名序を水仙の上
引すへ〳〵この名を裏よ通〳〵〳〵〳〵えて志

ぢらくあけて上中下の三段を蒙くかゝら
ゝ角たゝ生る鬼神のごとくの四個をこゝ
に中央にして改てはげ〳〵うやまふ体よりは洞の
そゝおぼしく脊ハセたかくもけうとん勢鬱ふ
して眼ぢぐ〳〵鼻いかり色赤く口大にして歯鬢ハ
胸乃ほうりより耳際まで〳〵ひまなく生ひ繁る男
よハ熊乃皮麻乃皮乃衣を纏ひ〳〵疾走
乃ごとくなるをうち掛左右よハ年若き美女七八人
でうを所住ひて中央に出上中央を囲ゝる
ハまきるべくもなき大纎の首領とおぼしき那者名
帝をもとと聽汝なるものなるべし山中より来

帝の髭を撫んとすや忽ちの間を
し去間去乃ちなるべし有体に告ふなるべ命を
助けくまん一云ふもいけるをもいけ〳〵驚んせバ
忽ちに体を塞乃月乃ごとく激塵よりもんぞし罵る
ゝハ法き法乃ごとくなるべ名帝ハくれを
雪て叫ぶとおゝハ汝こゝふ深山に男を流して
てゝ下乃廣大なるを志つゝ隙よりもなき里乃蝙蝠
井乃中乃蛙に等しきまこゝにハ厚くも當今文
德を皇乃外戚なる左兵衛佐紀名帝なるべ第一の
宮惟高親王こ乃ゝび思しかり立せまふゝるふ
ゝけく汝がこれまぐ乃山賊ゝ横惡を殺しなまい

名帋手ヒカガ
岩窟ヨ
至ルまで
勇をうる人

味方よりせいせいんが落ち体をうしなひ名帋
見まもり来たりしかりて奉天乃下奉土の淡いづま
王土よりあらざらん遠き世をかけて三ねんの勅命
をうけたまはりと九ぬかよりぐんりう千方うれを受
く大こう朝臣いま胡座の紀名帋にて勇士ばかり
万土よりの冠ぐりよりうれも少乃べり九種の勇士ばかり
山中よりさまのうしい来たり数うたりぬ小嶋原乃遠縄よ
うて茅巻乃ごとくよりて上らを勅命よりぐりを
かりて千方が身よりの官位もたり食稲ぐりうをて武勇
をんく法ゐを持りして金紀を奪ひ鉄玉をきい
もきば天よりの勅命恐るふ足らぬ去りるぐり勅使と

あるふ洗技乃ぐたりけくんもし威りけ高く罵る
りて名帋いてく和りく縄乃たりよかくりまいこの
山中を去りぐゆよ海が栖よ来んず畧たりたり足
ぐよ法をりりて千方をまきりりも拘乃数しも
りりをきや況や蜘乃巣乃ごと紀千筋乃縄うれよの
かくりりをりぐと立りぐりりを振りて又入法るぐ
打る縄りく大象を三ぐりりすくよ切き落て
両ゆをのぐりり力足をりりたりありまゆ寿代乃勇
力りり千方殆感業りりを力量をるりい足下まりの
名帋よもせよ性高者りり事を抜きたまよ下文りも
石持りりせりりりゆ名帋い例りる蒼竜乃紐を

しかるに業平乃御手を取りて抱きかゝげ是なりを
當今第一乃皇子惟喬親王とて渡らせ給ふさても此故
御撲の持貴によりて弟宮惟仁親王へ位を譲り
給ひけるにこれ藤氏の一族の奸計をもつて天下を
歎き奉るといへども兄君をさし置き二乃宮即位の
謂なしとこれによりて紀中将紀名虎ら
供奉しまいらせ藤原の千方を御親方に憑み某
東國をさしめぐりて軍勢をあつめ給はんとせし
藤氏乃奴原攻亡して一乃宮惟喬親王乃治世となさん
ぞおもひたち執も拜上志のほどしく聞くより千方を
坐を下て数ならぬ某を親王自ら御手ありて恩

と八宮かたりしをより千方流ぞ親方にかゝる上ハ是ハ此岩
窟に志のびて御旗しまいらせ軍勢を催し都に攻上る
べし流石千方もおぼしなしまれりとも天地に恥ぬ名虎
に同じこ乃血をすゝりあひ一味合体なりし名虎ぞ名虎を
さるもののほまし心地よろこび勇んで是より両個翼
の隠しかしばきまちく親王を忠臣になる是業
平八凡人にあらざれば千方をはじめ許多の小臓までも
の惟喬親王を御たのみありてかやまひ中書名虎八其なく
乃まゝに千方を味方となりし志ぞしく八此山中に止まりし
がいまだ軍勢足らされバあるとはいふあるべきまでにくしだ
諸國を経めぐりてたゞちに業平八千方に

あぢきなき

あぢきなくたきこ國が岳を至出(いで)て東國(とうごく)さまよひてゐあも

信夫摺在原卓氏文一畢